

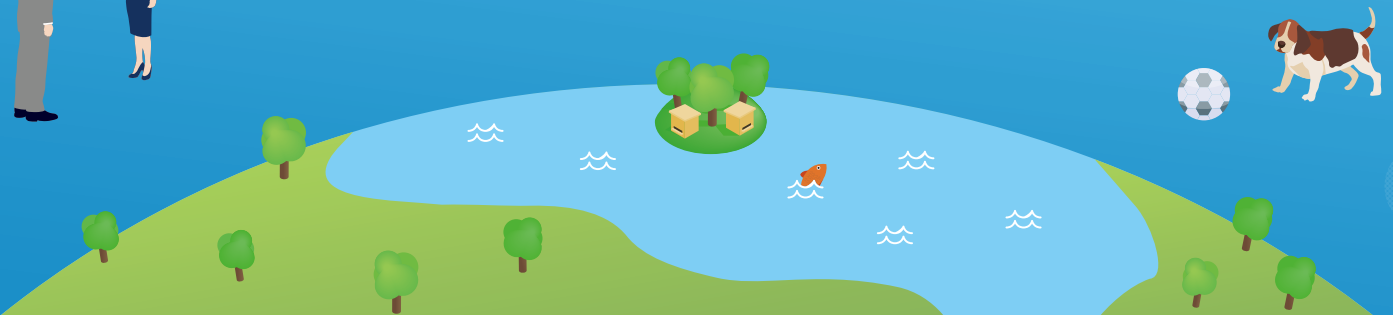
メニコンの SDGsへの取り組み

-Sustainable Development Goals-



メニコンの SDGsへの取り組み

メニコンは、2009年に「メニコン環境宣言」を掲げ、地球の未来を見据えて「人にも動物にも環境にも優しい地球企業でありたい」と願い、活動してきました。今後も持続可能な社会を見据えて、変わらぬ想いでSDGsに取り組んでいきます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 貧困をなくそう 	2 飢餓をゼロに 	3 すべての人に健康と福祉を 	4 質の高い教育をみんなに 	5 ジェンダー平等を実現しよう 	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	8 働きがいも経済成長も 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	10 人や国の不平等をなくそう 	11 住み続けられるまちづくりを 	12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を 	14 海の豊かさを守ろう 	15 陸の豊かさを守ろう 	16 平和と公正をすべての人に 	17 パートナーシップで目標を達成しよう 	

視力



コンタクトレンズ事業を中心として安心・安全な製品やサービスを通じて、皆様に見える喜びを提供します。

メルスプラン P3

豊富な製品ラインアップ P3

近視進行抑制への取り組み P3



環境



環境に配慮した製品開発や工場の改善に取り組んでいます。

工場における環境への取り組み P4

環境に配慮した製品の開発 P5

環境バイオ事業 P5

環境保全活動 P7



健康



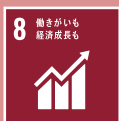
地球企業として、人だけでなく動物の健康を通じて、「生きる喜び」を提供します。

禁煙推進への取り組み P8

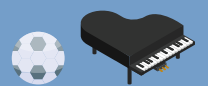
ライフサイエンス事業 P8

動物医療事業 P9

スマートクリエーション P9



社会



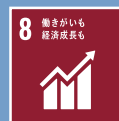
文化やスポーツ、教育への支援を通じ、社会に貢献しています。

メニコンカップ P10

メニコンANNEX P10

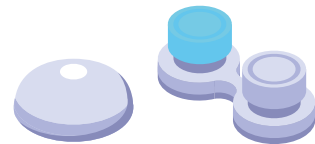
スポーツビジョン P10

未来を担う若者へ向けた教育支援 P10



SDGsへの取り組み - 視力

コンタクトレンズ事業を中心として安心・安全な製品やサービスを通じて、皆様に見える喜びを提供します。



メルスプラン



より良い視力の提供

創業者の田中恭一が1951年に日本で初めて角膜コンタクトレンズの開発に成功して以来、コンタクトレンズ事業を中心として、安心・安全な製品やサービスを通じて皆様に見える喜びを提供しています。



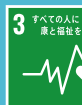
メルスプラン

コンタクトレンズユーザーの瞳の健康と安全を第一に考え、高品質なコンタクトレンズをより良い状態で使い続けていただくためのサービスとして2001年に誕生した「メルスプラン」。誕生後もレンズ種類やサービスの拡充を進め、133万人*の会員の方々にサービスを利用いただいています。

※2020年3月末時点



豊富なラインアップ



豊富な製品ラインアップ

コンタクトレンズは視力矯正用の高度管理医療機器ですが、視力矯正が必要な目の状態や生活環境はさまざまです。メニコンでは、さまざまな目の状態やライフスタイル、ニーズに合わせた製品を取り揃えて、一人でも多くの方の「見える喜び」を提供しています。

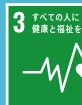


3ヵ月定期交換型ハードコンタクトレンズ「フォーシーズン」

1日使い捨て・定期交換型ソフトコンタクトレンズの主な製法の一つであるモールド製法にてハードコンタクトレンズの大量生産を実用化しました。ハードタイプにも定期交換型が欲しいというニーズに応えた製品です。



近視進行抑制への取り組み

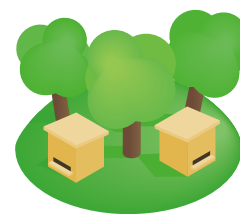


近年、全世界的に近視人口が増加して大きな社会問題となっています。2050年までに世界の人口の約半数が近視になると推定される状況において包括的な対応が求められています。メニコングループは各国の法規制に対応しつつ、コンタクトレンズのパイオニア企業として技術・商品・サービスを更に発展させた新たな近視進行抑制の活動を通じて社会に貢献していきます。



SDGsへの取り組み - 環境

環境に配慮した製品開発や工場の改善に取り組んでいます。



工場における環境への取り組み



廃棄物削減への取り組み

メニコンでは、製造工程で使用するプラスチックを上質な資源と認識しています。工場では使用後も極力廃棄せず、工場内外で有効活用しています。

< 関工場・各務原工場 >

工場で使用したプラスチックはリサイクル業者(中部クリーンシステム)を通じて、さまざまなプラスチック製品の原材料として活用されています。

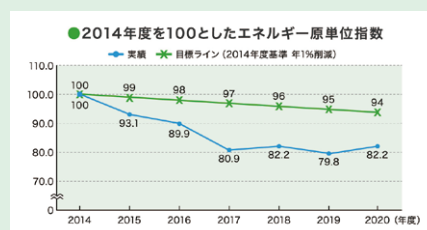
< シンガポール工場 >

シンガポール工場では、使用後のプラスチックの約40%を二次包装パッケージの原材料として再利用しており、残りのプラスチックもリサイクル業者へ受け渡しています。



温室効果ガス削減への取り組み

メニコンが地球に優しい企業として活動する上で、気候変動は重要な課題と認識しており、関工場ではエネルギー消費量原単位で年1%以上の削減を目標に取り組んでいます。



(原単位:生産梱包数当たり)

オランダにあるMenicon B.V.のエメン工場の屋上には、年間150MWhの電力を供給できる550枚のソーラーパネルを設置しています。工場稼働に必要なエネルギーの15%を賄っています。また、ヒートポンプを利用して、冬に冷気を蓄えます。蓄えられた空気は夏に建物を冷やすために再利用でき、逆に夏に蓄えられた熱は冬に建物を暖めるために再利用することができます。



水資源の有効活用

コンタクトレンズ装着脱の前には手洗いに水を使い、ハードコンタクトレンズや定期交換型ソフトコンタクトレンズでは、使用後にケア用品(液剤)によるレンズケアを行う必要があり、水資源はコンタクトレンズに関わる重要な資源と認識しています。

2015年に設立した各務原工場では、従来と比較し50%の節水が可能な純水製造装置を採用しました。関工場では、ソフトコンタクトレンズの生産過程で排出される水の一部を、工場内のトイレの排水として活用するなど、水資源の有効活用に取り組んでいます。



環境に配慮した製品の開発



シンガポール工場で生産している1日使い捨てコンタクトレンズ「Magic」は、当社従来品（メニコン1DAY）と比較してレンズ容器のプラスチック使用量を80%削減し、パッケージはコンタクトレンズの製造工程で使用したプラスチックを100%再利用して生産しています。



オランダにあるMenicon B.V.のエメン工場では、製造したコンタクトレンズを収納する容器や宅配用パッケージをリサイクル可能な素材に変更することにより、環境に配慮しています。



フランスのケア用品工場Menicon Pharma SASでは、新しい製造技術により、ケア用品ボトルのプラスチック材料の使用量を最大30%削減※しました。

※当工場での従来品との比較。



環境バイオ事業



メニコンは、コンタクトレンズ・ケア用品の開発で培った技術を、環境事業分野に活用し、メニコンならではの高品質なものづくりで、環境ビジネスの可能性を拓きます。

稲わら分解促進材：アグリ革命

稲刈り後に残ったわらは土と混ぜられて分解されます。しかし、分解が不十分なままで田んぼに水を入れると、残ったワラが浮いてきたり、有害なガスが発生したりします。また、従来稲わらは焼却処分されることも多く、環境上の問題が指摘されてきました。メニコンはコンタクトレンズのケア用品で培った酵素技術を活かして、稲わら分解促進材「アグリ革命」を開発しました。酵素のチカラで稲わらを分解を促進させ、「ガスわき」や「浮ワラ」を減らす地球に優しい資材です。



環境にやさしい堆肥化促進システム：resQ45

現在、日本国内では年間約8,000万トン※の家畜排泄物が排出されています。悪臭や水質汚染など環境への悪影響が懸念されるほか、その処理は農家にとって大変な負担となっています。メニコンはトヨタ自動車との共同で、排泄物を迅速に堆肥化する「resQ45（レスキューヨンジュウゴ）」を開発。発売以来、畜産農家の方々に好評いただいています。

※農林水産省「畜産唐家 推計」（2016年）より引用



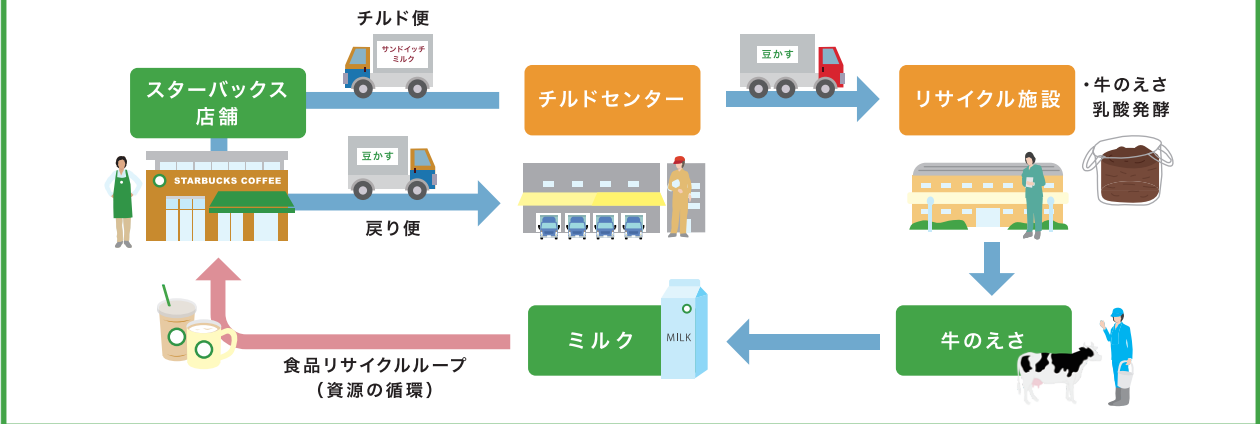
限りある資源を有効活用

- スターバックスと取り組む、コーヒー豆かすリサイクル

メニコンは環境エコ事業として稲わら分解促進材や畜ふんの堆肥化促進材などの開発に取り組んできましたが、これまでに培った発酵促進技術に応用し、スターバックスコーヒージャパン株式会社のコーヒー豆かすを各店から衛生的に回収し乳酸発酵させることで長期保存と飼料としての利用を可能にする技術を確立、実用化に至りました。



コーヒー豆かすリサイクルの流れ



- ワインの製造工程で出るぶどう搾りかすの有効活用

メニコンはワインの製造工程で発生するぶどうの搾りかすを乾燥粉末化させ飼料化する技術を確立、実用化することに成功しました。ぶどう搾りかすの粉末を飼料に混ぜると、「旨味」と「コク」が増し、鮮度をより長く保ち、病気にかかりにくくなる傾向があります(*)。現在、山梨県のブランド鱒である「甲斐サーモンレッド」の飼料として活用されています。

※山梨県水産技術センター試験研究調査報告書より



さらなる活用として、当社はトルムスイニシエイト株式会社と共同でぶどうの搾りかすを使用したバイオマスプラスチックを開発しました。協力会社の持つ特殊な技術により射出成型可能な原料となりました。メニコンはこの技術を活用し、プラスチックの使用削減に貢献します。



- 廃棄されるゆで卵の有効活用

食品として使われるゆで卵が全国の工場で作られています。これらのゆで卵は少しでもかけたり殻が付着していたら商品になりません。とても価値が高いにも関わらず廃棄せざるを得ないゆで卵を活用すべく、ナガセサンバイオ株式会社と共同で乾燥粉末化技術を確立しました。現在、養魚用や養豚用の栄養価の高い飼料として利用されています。

ゆで卵 飼料化イメージ



環境保全活動



持続可能な社会へ向け、さまざまな活動を行っています。

なごや西の森づくり

名古屋市が主催し、市民や企業が主体となって次世代に伝える豊かな森を育てていこうとする森づくりです。メニコンは2009年から「植樹祭」に参加し、苗木の寄付や一連の植樹・育樹活動へ参加しています。



メニコンの森

豊かな森あふれる環境を、そしていのちに欠かせない「水」を、私たちの手で育てていきたいという思いのもと、2011年より岐阜県高山市における森林再生プロジェクトに参画し、苗木の寄付や一連の植樹・育樹活動を行っています。



クールビズ・ウォームビズ

東日本大震災発生後の2011年より、夏季は国内の全グループ社員にオリジナルポロシャツを支給しています※。就業中は全員がユニフォームとして着用し、冬季にはソフトで保温効果の高い機能性繊維を使用したオリジナルジャンパー等を着用するなど、全社をあげてクールビズ・ウォームビズを推進し、省エネ・節電への取り組みを継続しています。

※業務上着用が難しい工場や一部のグループ会社を除く



風呂敷の活用開始

メニコンの直営店「Menicon Miru」、「Miru+」では、風呂敷の活用を開始しました。使用済ペットボトルをリサイクルした素材で制作し、小さく折り畳むことができ、商品お持ち帰り後もさまざまな機会でも繰り返しお使いいただけます。



SDGsへの取り組み - 健康



地球企業として、人だけでなく動物の健康を通じて、「生きる喜び」を提供します。

禁煙推進への取り組み



禁煙推進への取り組み

メニコンは目に携わる企業であり、高度管理医療機器メーカーとして従業員はもちろん、お取引先様や地域社会の皆様の健康のため、禁煙運動を推進しています。



禁煙運動推進事業

メニコンは2016年に禁煙運動推進事業を定款に追加し、禁煙運動推進のための研究会、講習会など各種教育事業に関する企画、立案、制作、運営ならびにコンサルティングを行っています。



ライフサイエンス事業



コンタクトレンズ開発で培った「技術」や「ものづくり」へのこだわり、「チャレンジ精神」を医療の分野でも活用しております。

涙の中に多く含まれるラクトフェリンの重要性に着目した「ラフェリアイ」をはじめ、目や体の健康をサポートするサプリメントの開発・販売も行っています。

また、運動性が高く、良好な精子を選別するための装置「ミグリス」を開発し販売しています。あわせて、妊活をサポートするサプリメント「プレグナ」シリーズや「ルナリズムラクトフェリン」も販売しています。



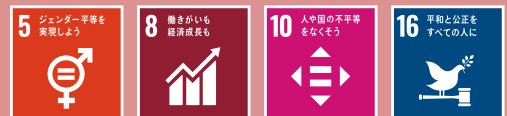
動物医療事業



メニコンは人間の眼科分野で培った技術をベースにして、1997年に日本で初めての動物用眼内レンズを発売。その後、動物医療事業は「株式会社メニワン」として分社し、動物医療の発展と飼い主さまの「大切な家族と少しでも長く一緒に過ごしたい」という気持ちに応えるため、メニワンは大切な家族の健康をサポートする製品開発に取り組んでいます。



スマートクリエーション



スマートクリエーション

メニコンは経営理念にて「社員」を重要なステークホルダーのひとつと位置づけています。「スマートクリエーション」を当社の働き方改革スローガンに掲げ、社員の心身の健康や社員間のコミュニケーション促進を考えた職場環境の整備を通じて、業務の生産性と満足度の向上に取り組んでいます。



事業所のフリーアドレス

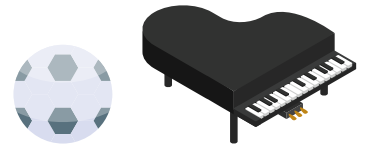
各事業所にて順次フリーアドレス化を行っています。事業所の特性に応じ、自由な空間で業務を可能とすることでコミュニケーションの円滑化や、創造的なアイデアと新たな価値を生み出すことが期待できる空間を作っています。本社オフィスでは、従業員の健康を意識して、長時間座り続けることを避ける工夫を行っています。

総合研究所では、新たなアイデアの発見と開発スピードアップを図るため、研究や業務のフェーズに応じて発想を切り替えられるスペースを作っています。



SDGsへの取り組み - 社会

文化やスポーツ、教育への支援を通じ、社会に貢献しています。



メニコンカップ



メニコンカップは中学生世代のクラブユース選手のオールスター戦で、メニコンは1995年の第1回大会からこの大会に協賛しております。これまでのメニコンカップ出場選手からは、国内外のプロチームで150名を超える選手が活躍しており、まさにプロ選手への登竜門といえる大会です。サッカーでは、「アイコンタクト」という言葉があるように、眼（視覚）が重要な役割を果たしており、メニコンは「見える喜び」を提供すると共に、若者の「挑戦」や「可能性」をサポートしています。



メニコンANNEX



「独創」と「チャレンジ」。メニコンのDNAとして受け継がれる私たちの精神です。歴史と共に醸成された企業文化を接点として地域社会と交流し、新たな文化の創造と発信を目指し、2011年にメニコンANNEX内に「ギャラリーMenio」と「HITOMIホール」を設けました。芸術を志す地域の方々や若者にも活用いただいています。



スポーツビジョン



動いているものを見る力、距離感をつかむ力、瞬間的に情報をとらえる力、周辺を的確にとらえる力など、スポーツに必要なさまざまな眼の力は総称して「スポーツビジョン」と呼ばれています。メニコンは、パフォーマンスの向上と「見る」力との関係について研究するとともに、スポーツの発展にも貢献しています。



未来を担う若者へ向けた教育支援



持続可能な社会には次世代を担う若者の活躍が欠かせません。メニコンは、学生の教育を支援するさまざまな取り組みに参画し、人材育成に貢献しています。





Menicon